

### Ⅲ 教育の実施体制

#### 【教員組織】

##### (1) 現在の専任教員数について。

平成 22 年度教員配置は、下表のとおりである。短期大学設置基準のほか、保育科においては教職課程認定基準及び指定保育士養成施設指定基準を遵守する教員配置となっている。

兵庫大学短期大学部の専任教員数

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	[ハ]	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	[イ]	[ロ]			
保育科第一部	6	5	5	—	16	10(3)	—	—	—	教育学・保育学関係
保育科第三部	3	1	—	—	4	3(1)	—	—	—	教育学・保育学関係
美術デザイン学科 第一部	2	1	1	—	4	5(2)	—	—	—	美術関係
小計	11	7	6	—	24	18(6)	—	—	—	
[ロ]	—	—	—	—	—	—	5(3)	—	—	
合計	11	7	6	—	24	18(6)	5(3)	—	—	

##### (2) 教員の採用、昇任が適切に行われているか。

専任教員の採用・昇任の選考基準については、教授、准教授、専任講師、助教、助手の職名ごとに、「兵庫大学短期大学部専任教育職員選考規程」に明示している。

教員の採用・昇任の発議は、短期大学部長が教授会の議を経て大学運営会議（学長、副学長、学長補佐、学部長、室・部長、附属機関の長で構成）に提案を行う。大学運営会議は採用の必要可否及び昇任の可否を審議決定する。専任教員の採用は原則として公募により行われる。

専任教員の採用・昇任の具体的な手続き等は、「兵庫大学短期大学部専任教育職員選考実施取扱要領」及び「兵庫大学短期大学部専任教育職員採用の手続きについて」に則り実施されている。

教授会及び大学運営会議において審議決定された候補者について、①資格審査委員会における審査、②資格審査委員会の審査結果を基に教授会において採用又は昇任の可否について審議、③教授会において「可」の判定を受けた場合、大学運営会議において採用又は昇任の可否について審議決定を行う。なお、採用選考については、学長及び理事長が面接を行い、採用を決定する。

##### (3) 教員の年齢構成について。

教員の年齢構成は下表のとおりである。50歳以上の教員が75%、49歳以下の教員が25%を占めており、若い教員が少ない年齢構成となっている。

専任教員等の年齢構成（短期大学全体で作成）（年齢は平成 22 年 5 月 1 日現在）

	年齢ごとの専任教員数(助教以上)						平均年齢	助手等の 平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下			
合計人数 (25 人)	0	9	9	5	1	—	55.4	—	
割合(%)	0	37.5	37.5	20.8	4.2	—			

**(4) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるか。**

(a) 授業

専任教員の平均担当コマ数等は、下表のとおりである。

専任教員の担当コマ数等

学科	担当コマ基準 (年間)	平均担当コマ数		
		20 年度	21 年度	22 年度
保育科	10	13.66	13.67	12.86
美術デザイン学科	10	11.39	7.92	7.75
平均	10	13.19	12.52	12.01

併設する兵庫大学での担当コマ数を含む。

専任教員の担当コマ基準は、年間 10 コマとなっている。平成 22 年度は平均担当コマ数が 12.01 であり、担当コマ基準を満たしている。過去 3 カ年のコマ数を見てみると、保育科教員の担当コマが多くなっており、美術デザイン学科の担当コマ数は減っていることから、学科間での負担の差が生じている。さらに、保育科では、授業の負担に加え、学外実習指導や実習先への巡回訪問があることから、負担は大きい。

第三部制度が昼間二交代制であり、午前と午後で同一科目を開講していることも、コマ数が多い傾向を強めている。

担当コマ基準を超えた場合は、教員に増担手当を支給している。

(b) 研究

教員の研究業績については、《VI 研究》「平成 20～22 年度 専任教員の研究実績表」のとおりである。

全教員に対して、個人研究室を整備し、「個人研究費規程」に基づき、個人研究費を支給して研究支援を行っている。

研究成果については、『「研究集録」投稿規程』に基づき、「兵庫大学短期大学部研究集録」へ投稿することができる。この研究集録は、『「研究集録」編集委員会規程』に基づき、編集委員会において編集され、毎年 1 回発行されている。

(c) 学生指導

学生指導は、「クラス担任」が中心となって行っている。クラス担任は、次の事項を学生指導の基本としている。

- ① 学生の進路計画を指導・助言し、学期ごとの履修計画を点検・確認する。

- ② 学生の修学上の諸問題（休学、退学、転学を含む）について、指導・助言する。
- ③ 学生の生活上の諸問題（学生生活への不適應、人間関係上の困難、心身の健康上の問題、奨学金申請等）について相談に乗り、必要に応じて関係部署等への連絡を行う。
- ④ 学生の進路上の諸問題（留学、就職、進学等）について助言し、必要に応じて推薦状等の作成や関係部署等への連絡を行う。
- ⑤ 必要に応じて、保証人等への連絡の任にあたる。

学生指導を支援するシステムとして、Web システム（学内限定の教学システム）が整備されており、学科長及びクラス担任はシステム中の「学修支援シート」を利用することができる。「学修支援シート」は、学生の連絡先や履修情報、成績情報等の学生指導に必要な各種情報をリアルタイムで参照可能とするものである。

その他、学生に関する事項を審議するために、各種委員会（教務委員会、学生委員会、就職推進委員会、健康管理センター運営委員会）で学生指導の方針などを審議決定し、学生指導等にあたっている。

(d) その他教育研究上の業務

高大連携協定を結んでいる須磨ノ浦女子高等学校、加古川北高等学校、神戸北高等学校の高校生に対して、授業を行っている。

また、オープンキャンパスにおける体験授業や、高等学校からの要望に対して、出向いて実施する、出張講義などにも積極的に取り組んでいる。

教育活動や研究活動に加えて、学内の学科運営等に係わる職務が多様な中、各教員は意欲的に取り組んでいる。

**(5) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているか。**

本学では、教務課の中に学科事務室を設け、それぞれ事務職員及び派遣職員を配置し、学生及び教員への全面的な支援体制を整備しており、学科の運営にあたっている。

**【教育環境】**

**(1) 校舎・校地一覧表について。**

校舎・校地一覧 (平成 22 年 5 月 1 日現在)

区分	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
兵庫大学 短期大学部	570 人	4,900 m <sup>2</sup>	専用 3,375 m <sup>2</sup>	14,842 m <sup>2</sup>	4,400 m <sup>2</sup>	83,565 m <sup>2</sup>	64,725 m <sup>2</sup>
			共用 20,876 m <sup>2</sup>				
兵庫大学	1,440 人	11,317 m <sup>2</sup>	専用 6,808 m <sup>2</sup>		14,440 m <sup>2</sup>		
計	2,010 人		31,059 m <sup>2</sup>			83,565 m <sup>2</sup>	

〈基準校舎面積〉

学科	収容定員*1(人)	基準面積(m <sup>2</sup> )	短大設置基準 別表第二
保育科	430	3,600	イ表：教育学・保育学関係
美術デザイン学科	10	1,300	ロ表：美術関係
計		4,900	

\*1 収容定員算出方法

保育科

第一部 収容定員 300 人

第三部 収容定員 260 人→130 人\*2 合計 430 (=300+130) 人

美術デザイン学科

第一部 収容定員 10 人

合計 10 人

\*2 第三部の校舎・校地の基準面積算出について、その授業形態（昼間二交代の 3 年制）を勘案し収容定員に二分の一を乗じて算出している。

**(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているか。**

校地面積および校舎面積ともに短期大学設置基準、大学設置基準を大きく上回っており、校地、校舎等の施設は十分な規模を備え、余裕のある教育研究活動が行えると考えます。また、基礎科目や教養科目の授業は、時間割上一定の時限に設定し大学と同時開講することにより、教室の効率的な利用をはかっている。

**(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）とその使用状況（使用頻度等）について。**

コンピュータ教室

教室	機種	OS	台数	22年度 使用状況 (週あたりコマ数)		利用率(%)	
				I期	II期	I期	II期
2201	HP Compaq Business Desktop dc 7800 US/CT	Windows XP Pro	34	10	7	28	19
2301	HP Compaq Business Desktop dc 7800 US/CT	Windows XP Pro	62	15	14	42	39
2302	HP Compaq Business Desktop dc 7800 US/CT	Windows XP Pro	52	13	15	36	42
2303	HP Compaq Business Desktop dc 7800 US/CT	Windows XP Pro	52	12	13	33	36
2304	HP Compaq Business Desktop dc 7800 US/CT	Windows XP Pro	52	10	14	28	39

## ML教室

教室	機種	台数	22年度 使用状況 (週あたりコマ数)		利用率(%)	
			I期	II期	I期	II期
10314	YAMAHA Clavinova MLP-51	26	7	7	9	12
	YAMAHA Clavinova CLP-122	3				
10412	ミュージックラボラトリー・システム YAMAHA Clavinova MLP-71D	48	14	14	41	38
	ミュージックラボラトリー・システム YAMAHA Clavinova CVP-209	1				

## ピアノ練習室

教室	室数	台数
10302	8	8
10305	8	8
10306	8	8
10307	8	8

## 無線LAN設置状況

建屋	無線 LAN 設置場所	台数
2号館3階	ホール	2
3号館2階	第1会議室	1
3号館1階	ビデオ学習センター	1
5号館1階	閲覧室	2
5号館1階	閲覧ホール	2
5号館2階	閲覧室	2
11号館2階	講義室 (11201)	2
11号館1階	講義室 (11101)	1
11号館1階	講義室 (11102)	1
11号館1階	講義室 (11103)	1
12号館2階	第1会議室 (12202)	1
12号館2階	第2会議室 (12201)	1
17号館4階	EVホール	1
17号館3階	基礎看護実習室・ 成人老年看護実習室 (17301)	1
17号館3階	自習室	1
17号館3階	母性小児看護実習室 (17309)	1
17号館2階	研究室 (17214)	1
17号館1階	玄関ホール	1
17号館1階	講義室 (17101)	1

コンピュータ教室のコンピュータはすべて学内ネットワークに接続されており、「コンピュータ演習」、「情報教育演習」、「デジタルデザイン」をはじめとした様々な授業で利用されている。また、学生は授業時間以外でも自由にコンピュータを利用できる。

学内情報ネットワークシステムの維持管理は、情報メディアセンターが行っている。同センターには2名の専門職員に加え、学生アルバイトも常駐しており、コンピュータや学内ネットワークの利用に関する学生への指導等を行っている。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）の概要について。

視聴覚機器等設置状況

校舎	教室	席数	プロジェクター	マイク	DVD/VHS	ネットワーク	書面カメラ
1号館	1E401	99	○	○	○	○	
	1W316	121	○	○	○	○	
2号館	2101	45	○	○	○	○	
	2102	45	○	○	○	○	
	2103	188	○	○	○	○	○
	2104	188	○	○	○	○	○
	2201	32	○			○	
	2202	32	○	○	○	○	
	2203	32	○	○	○	○	
	2204	32	○	○	○	○	
	2205	32	○	○	○	○	
	2206	32	○	○	○	○	
	2301	62	○	○		○	
	2302	52	○	○		○	
	2303	52	○	○		○	
	2304	52	○	○		○	
5号館	5301	120		○	VHS		○
	5302	80	○	○	VHS		
	5401	240	○	○	○		
	5402	60	○	○	○		
	5403	60	○	○	○		
10号館	10301	180	○	○	○	○	
	10304	99	○	○	○	○	○
	10308	58	○	○	○	○	
	10311	90	○	○	○	○	
	10403	54	○	○	○	○	
11号館	11101	188	○	○	○	○	○
	11102	50	○	○	○	○	
	11103	24	○	○	○	○	
	11201	484	○	○	○	○	
17号館	17101	60	○	○	○	○	
	17201	90	○	○	○	○	
	17407	295	○	○	○	○	
	17408	252	○	○	○	○	

普通教室のマルチメディア化については、平成 20 年度の全学的な「新統合 HUMANS 教育研究用学内ネットワークシステム」（学内 LAN）整備とともに、マルチメディア化を進め、未整備の教室すべてに整備し、学内 LAN に接続し、ネットワークを活用した講義、演習が展開できるようになった。

普通教室の機器管理は教務課が行い、定期的な点検は、業者との保守契約に基づき、メンテナンスを実施している。

**(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休憩場所等の現状は適切か。**

① 校地、校舎の安全性

正門に警備員（2人）を365日24時間常駐させ、不法侵入者の取締り、学内巡回も適宜実施している。今後、地域に開かれた大学を前提とした安全性を追求する。

② 障害者への対応

バリアフリー化については、平成18年に既設建物である10号館と17号館に身体障害者対応のエレベーターを新設した。また、17号館の各フロアのトイレについてもバリアフリー化と身体障害者用トイレを設置する改修工事を行った。

③ 運動場、体育館

体育施設は、併設する兵庫大学と共用で、夜間照明付きグラウンド（6,035.8㎡）、テニスコート4面（オムニコート、照明付き）、体育館、ウェルネスルーム、リズム室があり、授業及び課外活動で使用しており、地域住民にも開放している。

④ 学生の休憩場所

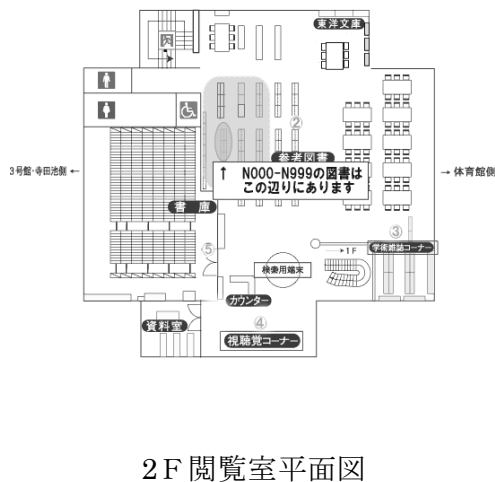
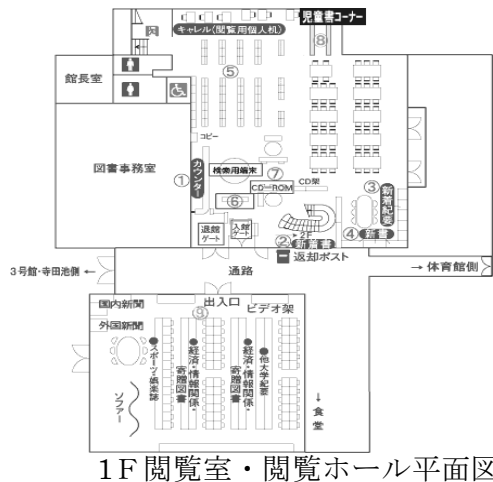
本学は、寺田池に隣接し、アカ松等の常緑樹を主体とした庭園部分と手入れされた生け垣等に囲まれ、豊富な庭木が存在し、緑のあふれるキャンパスである。また、滴翠園と呼ばれる庭園の中の遊歩道は学内移動にも利用されている。キャンパスの中心には、芝生広場（881㎡）があり学生の憩いの場として活用されている。また、校舎内には1号館2階、3号館1階、2号館と3号館の渡り廊下（コリドール）、4号館2階、17号館1階の空きスペースなどにテーブルやソファ、椅子を設置し、学生の休憩や談話に利用されている。またキャンパスの屋外部分にも数ヶ所の常設ベンチ等を置き、学生の休憩や待ち合わせ等に利用されている。

学生食堂は収容能力や環境等について課題があり、これまでも改善に向けた検討が行われてきたが、抜本的な改善に至っていない。しかし、平成19年度には一部改修を行い、座席の増設、厨房の改修や厨房機器の更新、売店の改修、空調設備の更新を行った。

キャンパス内のすべての建物内を禁煙とし、喫煙場所として指定場所を屋外に設け、分煙を進めている。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）】

(1) 図書館等の全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等の概要について。



本学図書館は、大学と短期大学の共同施設として5号館の1、2、3階に併設されている。延床面積は1,885㎡で、用途別面積の主なものは、開架閲覧室1,240㎡、書庫179㎡、事務室147㎡などである。1階は開架閲覧室、個人キャレル席、情報検索コーナー、新着図書コーナー、閲覧ホール（自習室）、事務室などから成っている。2階は開架閲覧室、書庫、メディア情報コーナー、情報検索コーナー、学術雑誌コーナーなどからなっている。3階にはグループ学習室、個人学習室がある。閲覧座席数は259席あり、併設大学と共用している。司書資格をもつ2名の専任職員を中心に、2名の派遣職員（内、1名は司書資格有）と若干名の学生アルバイトにより運営している。

図書館予算は大学と共用である。短期大学の資料費は下表の通りである。購入図書は主として教育・学習用である。下表は、教員が個人研究費（専任教員に本学が交付している研究費）で購入する研究用図書の数を含んでいない。

資料の購入費（平成22年度）		（単位 千円）
図書	図書以外の資料	計
853	1,565	2,418

資料の選定については、各学科から選出された情報メディアセンター運営委員を通して各学科に依頼しており、非常勤を含めた全教職員からの推薦・希望を受け付けている。学生からは、「購入希望制度」により受け付けている。選定は「図書館資料収集方針・選定基準」に基づき、図書館員と情報メディアセンター運営委員会の二つの組織が分担して行っている。

資料の廃棄については、「資料廃棄基準」に基づき行っている。備品図書の除籍は理事長決裁により行っている。雑誌、新聞、問題集等の消耗的資料の廃棄は、情報メディアセンター運営委員会に諮り、情報メディアセンター長決裁により行っている。



インターネットへは、学内 LAN を介して接続しており、利用者用検索端末 8 台、CD-ROM 検索パソコン 1 台がある。また、メディア情報コーナーには、DVD や CD-ROM、CD を視聴できるブース 6 台を設置している。このコーナーのシステムは、CD や DVD を約 800 枚収納できるチェンジャー 1 台と、ギャラリーサーバー 6 台により構成されている。利用者はメニュー方式で視聴したいものを選択できる。他に、視聴覚ブース 4 台を設置している。

**(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌、AV資料数等）について。**

蔵書約 14 万冊のうち、閲覧室に約 5 万冊、書庫等に約 9 万冊配架している。この他に製本雑誌が約 1 万冊ある。幼児教育に関する資料は豊富であり、絵本、紙芝居を含めると約 1 万冊になる。

図書館蔵書数一覧 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

	和書	洋書	学術雑誌	AV 資料
冊(種)	127,274 冊	11,366 冊	1,771 種	6,855 点

併設大学と共用。

**(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているか。**

① 授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書について

「授業計画（シラバス）」に掲載された参考図書は、原則的に 2 冊揃えている。教員が特に推薦するものは、指定図書コーナーを設け、教員名ごとに複数冊揃えている。図書利用の集中については、リザーブド・ブック制を設けて対応している。教科書は備えていない。これら図書の検索は、OPAC（蔵書検索）から、教員名または科目名からも検索可能である。

一般新着図書は、新着書架に別に展示するほか、館外の電子掲示板においても案内している。図書の年間受入数は、下表のとおりである。

年間受入資料数（平成 22 年度）

受入図書冊数			受入雑誌タイトル数			AV 資料数 (タイトル)
和書	洋書	計	日本語	外国語	計	
1,576	11	1,587	921	97	1,018	33

併設大学と共用。

② 図書館利用数について

学習室利用を除く入館者数は 31,197 人（平成 22 年度、併設大学と合算）である。貸出状況は下表の通りである。

貸出状況（平成 22 年度）

	短大生	大学生・ 大学院生	その他	計
貸出人数(人)	1,530	5,231	1,304	8,793
貸出冊数(冊)	3,339	12,155	4,198	19,692

< 情報メディアセンター長 >

4 年制大学を併設している関係上、蔵書数は同規模短大に比べて遜色ないが、貸し出しや閲覧など、利用者がやや少ないと思われる。学習図書館としての性格を強め、普段の授業や演習の教育効果を側面から支援することが求められている。開館時間は、平日午後 8 時までであり利用は定着している。

**(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているか。**

① 図書館から学内外への情報発信

本学図書館は専用の Web ページを開設しており、Web 上に利用案内、図書館ニュース、学園出版物などを発信している。また、蔵書検索や各種データベース検索も Web 上から利用可能としている。

学内には図書館専用の電子掲示板を設置しており、新着図書情報等を中心に発信している。

この他、専任教員へはメールマガジンを発信しており、授業支援に積極的に努めている。学生に対しては、話題の本の紹介などを行う「図書館ニュース」を年 4 回発行している。

② 他の図書館との連携

他の図書館とは、国立情報学研究所の ILL を介して閲覧、文献複写、現物貸借など相互協力を行っている。兵庫県大学図書館協議会や阪神地区私立大学図書館協議会、佛教大学図書館協議会に加盟し、相互協力を進めている。地域への開放も行っており、地域の利用者による利用が定着している。公共図書館との相互利用は行っていない。

他の図書館との文献複写・現物貸借の受付件数、依頼件数は、下表のとおりである。

相互協力状況（平成 22 年度）

文献複写(件)		現物貸借(冊)	
受付数	依頼数	貸出数	借受数
407	399	64	29

併設大学と合算。

< 情報メディアセンター長 >

書籍の貸し出し利用件数は伸び悩んでいるが、相互貸借による他の図書館への貸借依頼、文献複写依頼件数は増加しており、利用者の要求が多様化していると思われる。一方、卒業生、地域の利用者への開放が定着し、多くの人から利用されるようになった。地域へのサービス提供として社会貢献の一翼を担うものとして評価できる。ますます電子図書館化が進行する時代にあって、情報提供機能の充実、他の図書館との連携を図ることが求められている。

**【特記事項】**

**(1) この《Ⅲ 教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあるか。**

「授業公開」は、FD の取組みとして平成 19 年度にはじめて実施するとともに授業公開終了後に意見交換会を行った。平成 20 年度には 11 月に授業公開週間(9 日間)を設定し、5 つの科目において授業の公開を行った。

「兵大 FD セミナー」は、平成 19 年度は第 1 部で全体研修「わたしの授業」、第 2 部でワークショップ「学生が集中するクラスマネジメント」を、平成 20 年度は「学生とうまく付き合う方法」をテーマに、第 1 部ではパネル・ディスカッション「学生の指導とつきあい方」、第 2 部ではワークショップ「カウンセリング技法を活かした学生指導」を、平成 21 年度は開催した。

「FD 通信」発行は、委員会活動報告及び教員の意識喚起のため、平成 19 年度から発行し全教職員に配布している。